

JAPAN HERITAGE

日本遺産

時を超え、時に合わせて
見守り続ける癒しの聖地

女性とともに 今に息づく 女人高野

室生寺
五重塔



金剛寺の正御影供



室生寺 十一面観音立像



慈尊院の乳房形絵馬



慈尊院



女人堂前にある
かつての女人結界

わたしたちのまちの日本遺産
「女人高野」について学ぼう!



室生寺の五重塔

山深い境内の急な石段を登った先にある五重塔。「女人高野」の別称をもつ室生寺にある建物のなかで、もっとも古い建物。

ストーリーのポイント



分類：シリアル型



所在自治体

河内長野市（大阪府）、宇陀市（奈良県）、九度山町、高野町（和歌山県）

おもな構成文化財

室生寺の境内、金剛寺の境内、慈尊院の境内、天野街道、高野街道、町石道、女人道、不動坂口女人堂、お竹地藏尊、佛隆寺、大野寺、安産寺、正御影供、丹生官省符神社、舟戸河湊跡、子継地藏（粉撞地藏）など

ストーリーポイント

釜
祭
湯
井
茶
山
人
道

「女人禁制」の高野山にかわる、女性たちの祈りの場

■ 女性の入れない山、高野山

和歌山県北部の山中に、高野山があります。平安時代のはじめに仏教の真言宗を開いた僧、空海（弘法大師）が修行の山として以来、信仰の山として知られています。この高野山、開山してから明治時代になるまで、境内での女性の参拝は許されていませんでした。僧が修行に集中するには、女性との関わりを絶つべきという考えから、女性の参拝を禁じていたのです。

しかし、女性にも不安や苦しみ、悩みや願いなどがあります。現在のように医学や社会福祉が充実していなかった時代、そうした気持ちをいやしてくれるのは信仰でした。「わたしたちもお大師様の教えを授かり救われたい…」。そんな女性たちの願いがかなえられる場所が女人高野でした。

■ 4つのお寺

女性がお参りすることが許された真言宗のお寺を「女人高野」とよびます。高野山のまわりには、べんいちさんむろうじ（奈良県宇陀市）、あまのさんこんごうじ（大阪府河内長野市）、まんねんさんじ（和歌山県九度山町）、こうやさんこんごうぶじ（和歌山県高野町）の4つの女人高野がありました。

室生寺は、江戸時代に5代将軍徳川綱吉の母、桂昌院の寄付で大規模な修繕がおこなわれてから、女人高野として広く知られるようになりました。金剛寺は平安時代の後白河天皇の妹、八条女院と縁の深いお寺です。慈尊院は空海の母、玉依御前が本尊の弥勒菩薩に化身したという伝説のあるお寺です。そして高野山女人堂は、高野山にある女性のためのお堂、女人堂です。

▲金剛寺の境内
空海も修行をしたと伝えられる金剛寺には、かつては100あまりの小寺院が集まっていたという。

■ 女人堂、女人道

高野山に入る入り口は7つありましたが、その入り口から中には女性が入ることができませんでした。しかし、入り口までなら女性がお参りすることが許されていました。7つの入り口にはお参りに来た女性たちのためにお堂が建てられました。これが女人堂です。女性たちはこの女人堂で手を合わせて祈り、夜を明かしました。これら7つの女人堂をつなぐ道もでき、女人道とよばれました。

高野山に入れない女性たちは、こうしたお寺やお堂などの女人高野によって、空海につながることができました。

▲不動坂口女人堂
現存しているただひとつの女人堂。

山やまに囲まれた高野山



●高野山の根本大塔

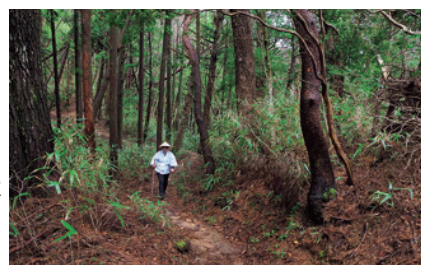
けわしい山道を登っていくと、木々の間から根本大塔が見える。

特徴 1 けわしい山地

高野山は、標高1000m前後の峰みねに囲まれた標高820mほどの盆地状の平らな土地の総称です。

高野山の入り口に設けられた女人堂にお参りするには、登ったり下ったりしながら、周囲のけわしい山をこえてこななければなりません。こうした山は僧たちが厳しい修行をするのには適していますが、女性がお参りに行くにはつらく厳しい山道でした。7つの女人堂を結ぶ女人道もとてもけわしい道です。それでも、空海の教えを授かり救われたいと願う女性たちは高野山を訪れ、山道をひたすらに歩き、ときどきかいま見える山内のお堂に向かって手を合わせました。

高野山の周囲をめぐる女人道。高野山で修行をする息子を案じてここを歩く母親もいた。



特徴 2 高野山につながる道

女人高野とよばれるお寺は、高野山のある和歌山県と、奈良県、大阪府などにあります。これらの地域は昔から高野山と結ばれていました。高野山の7つの入り口につながる街道があり、そのうち奈良からは大峰道が、大阪からは高野街道（京大坂道）が、それぞれ高野山へつながっています。また、高野山のふもとで慈尊院からは町石道という高野山への参詣道があり、多くの参詣者が祈りを胸に歩きました。女人高野はこうした道によって高野山につながる地域にあったのです。



①高野街道

都の皇族や貴族から庶民まで、多くの人がこの道で高野山に参拝した。



②慈尊院の境内

かつての慈尊院は高野山のふもとを流れる紀の川の畔にあったが、洪水の被害にあい、現在の高台に移転されている。



③慈尊院と高野山奥之院を結ぶ町石道

五輪卒塔婆をかたどった石塔が1町（109m）ごとに建てられ、参詣道の道標にもなっていた。

いまも女性に 寄りそい、導く

注目ポイント1 心の平穏から乳がん平癒まで

高野山のひとつ、慈尊院は、長く女性の信仰を集めるうち、安産や授乳、育児などの祈願もおこなうようになりました。境内には、お乳の出がよくなることなどを祈る数多くの絵馬が奉納されています。

金剛寺では、現在、女性のための活動として、ピンクリボンデーに読経とともに多宝塔をピンク色にライトアップしています。この活動は、多くの女性が参拝する高野山として、乳がんで悲しむ女性をひとりでも減らそうと、乳がん検診をよびかけるピンクリボン運動に賛同しておこなわれています。高野山は、時をこえ、さまざまな形で女性をささえているのです。

慈尊院の弥勒仏坐像



空海の母親、玉依御前が亡くなったときに、空海が自ら手がけた仏像と伝えられる。柔和な表情が美しい。

ライトアップされた金剛寺の多宝塔



ピンクリボン運動では、文化財をいかして、女性の健康のための情報を発信している。

慈尊院の境内に奉納された絵馬



お産や授乳、子育ての無事を願って乳房をかたどったたくさんの絵馬が納められている。

現在の不動坂口女人堂



道の両端にある2本の石柱は「女人結界」の跡で、この先には女性が入れないという自印になっていた。

お竹地蔵尊



お竹地蔵尊は、高さ約4.2m、石の台座をふくめると7.4mの巨大な地蔵尊。1745年に建てられたとされる。

コラム

旅行ガイドブック『名所図会』

江戸時代に、『名所図会』という書物が刊行されていました。旅行をテーマにした読み物である『東海道中膝栗毛』などに対して、各地の名所を絵入りで紹介した、現在の旅行ガイドブックのような本です。

高野山もこの『名所図会』で紹介されています。高野山を案内する『大和名所図会』には室生寺が「世間ではこの寺を高野山」と紹介されています。和歌山を案内する『紀伊国名所図会』には、不動坂口女人堂が「各地から参拝した女性が宿泊するところ」と紹介されています。不動坂口の紹介に添えられた絵には、女性が腰かけて休憩して



▲『紀伊国名所図会』に描かれた不動坂口女人堂

女性たちは女人堂にとどまり、男性たちはそのまま結界の先に入っていくようすが描かれている。

いる女人堂があり、その横にある入り口の先には女性の姿がありません。ここからは女性の立ち入りが禁じられていたことがあらわされています。このページの上にある現在の不動坂口女人堂の写真とくらべてみると、位置関係などもとても正確に描かれた絵だということがわかります。



JAPAN HERITAGE

日本遺産

●日本遺産とは？

わたしたちのくらす日本には、長い歴史によって生み出された地域独自の伝統文化や風習が全国各地に存在しており、いまでも世代をこえて大切に受けつがれています。

たとえば、美しい自然にめぐまれた湖周辺の土地では、湖でとれた魚などを中心とした交易がさかんになります。食材をよそへ運ぶ人びとの往来が増えると祭りなどが生まれ、その地域

「日本遺産」ってなんだろう？



文化庁から「日本遺産」の認定を受けたストーリーの、パンフレットやホームページなどには、左のロゴマークがつかわれています。

一帯の文化はどんどん華やかになっていきます。

そこには、その地域独自の自然、信仰、歴史、食文化、くらし、芸能や工芸といった伝統文化が根づいていきます。そのような世代をこえて受けつがれてきた風習、伝統文化をひとつにつないだ「ストーリー」として認定したのが「日本遺産」です。

「日本遺産」は、文化財を個別に大切に保存するだけでなく、地域の歴史や風土にもとづくストーリーの中に組みこんで、国内外の人びとに地域の魅力をもっと知ってもらうために活用しようとなりました。

2020（令和2）年までに104のストーリーが認定されています。

この冊子を読むみなさんへ

「女性とともに今に息づく女人高野」は令和2年に第96番目のストーリーとして日本遺産に認定されました。今は、だれもが高野山に入ることができますが、昔は女性が入ることは許されていませんでした。僧が高野山で修行する妨げとなると考えられたからです。そんな時代でも女性を受け入れていたお寺が女人高野と呼ばれました。サブタイトルに「時を超え、時に合わせて見守り続ける癒しの聖地」とあるように、この女人高野のお寺は、今も女性が友人や家族など、親しい人の健康や幸せを願う場所となっています。心を穏やかにし、やすらぎを得る場所として、多くの女性の心のよりどころとなっているのです。みなさんも、これを機会に女人高野に関係する文化財や歴史を調べるとともに、様々な取り組みに参加し、そのすばらしさを感じてください。そして、その魅力を未来に伝えていける人となることを期待しています。

女人高野日本遺産協議会事務局

●問合せ先

女人高野日本遺産協議会事務局

（河内長野市生涯学習部文化財保護課内）

〒586-8501 河内長野市原町一丁目1番1号

（河内長野市役所7階）

電話：0721-53-1111

文化庁 日本遺産ポータルサイト # 96

<http://japan-heritage.bunka.go.jp/ja/stories/story096/index.html>

女性とともに今に息づく女人高野

～時を超え、時に合わせて見守り続ける癒しの聖地～

2022年3月 第1刷

発行／女人高野日本遺産協議会事務局

企画・制作／株式会社ポプラ社

編集／株式会社アルバ

デザイン・DTP／チャドル108

印刷／図書印刷株式会社